

# トビウオ通信 (H27 第 5 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 26 年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

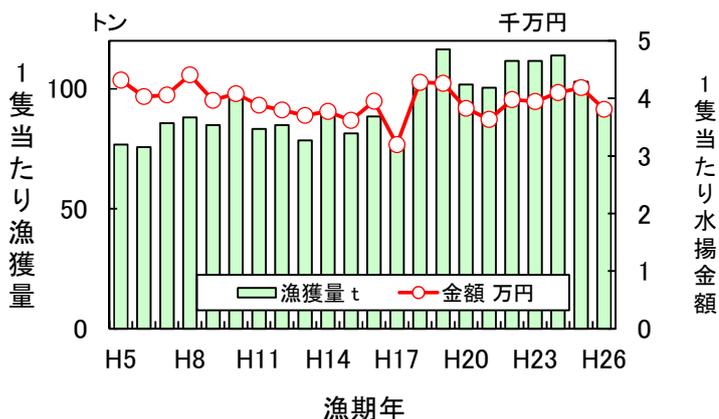


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

#### 1 隻当たり水揚金額、平年をやや下回る

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 44 隻\*の平成 26 年漁期 (平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 4,080 トン、総水揚金額は 16 億 7,667 万円でした。1 隻当たり漁獲量 (以下、CPUE) は 92.7 トン、水揚金額は 3,811 万円で、漁獲量では平年を 10%、水揚金額では平年を 3% それぞれ下回る水揚げとなりました (過去 10 ヶ年平均; 103.2 トン、3,936 万円) (図 1)。

\*当漁業における島根県全体の操業隻数は 45 隻ですが、統計は 44 隻分の集計です。

#### ソウハチ 前年をやや下回る

ソウハチの CPUE は 18.4 トンで、前年の 9 割で平年並みの水揚げとなりました。年変動が大きい魚種であり、近年漁場を沖合へ広げつつ漁獲を増やしてきましたが、ここ 2 年は減少傾向にあります。一方、ムシガレイの CPUE は 3.0 トンで前年の 9 割、平年の 7 割の水揚げに留まりました。このほか、ヤナギムシガレイの CPUE は 1.5 トン (平年並)、メイタガレイの CPUE は 0.7 トン (平年の 6 割) でした。

#### ケンサキイカ 低調

ケンサキイカの CPUE は 0.9 トンで、前年の 7 割、平年の 3 割の水揚げに留まりました。ヤリイカの CPUE は 2.5 トンで、前年の 1.2 倍で平年の 1.4 倍の水揚げとなりました。

#### アカムツ 平年を下回る、アナゴ類は平年を上回る

アカムツの CPUE は 2.0 トンで、前年の 6 割、平年の 7 割に留まりました。キダイの CPUE は 4.5 トンで平年の 8 割となっています。ニギスの CPUE は 10.0 トンで平年の 9 割、アンコウの CPUE は 6.0 トンで平年の 7 割の水揚げに留まりました。アナゴ類は 4.4 トンで、平年の 1.2 倍の水揚げでした。このほか、春季に好調だったハタハタの CPUE は 1.2 トンと平年の 1.5 倍でした。また、マダラの CPUE は 7.7 トン、平年の 1.9 倍で平成元年以降最高でした。

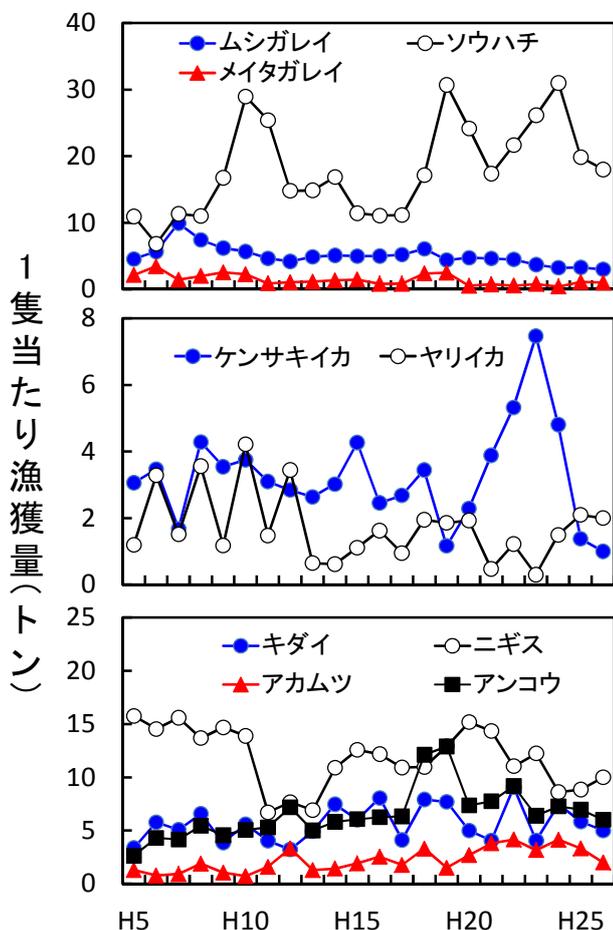


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

## 沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

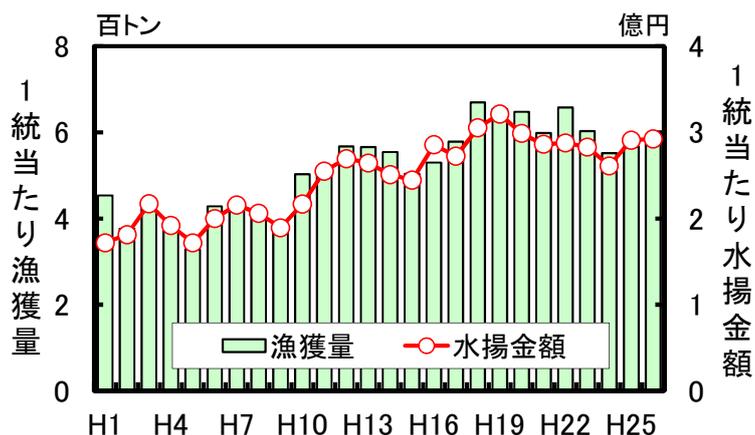


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

### 1 統当たり水揚金額は平年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数5ヶ統）の平成26年漁期（平成26年8月16日～27年5月31日）の総漁獲量は2,935トン、総水揚金額は14億6,133万円でした。また、1統当たりの漁獲量は567トン、水揚金額は2億9,227万円で、漁獲量は平年をわずかに下回りましたが、水揚金額は平年並みとなりました（過去10年平均：606ト、2億8,918万円）（図3）。秋には台風の影響もありましたが、漁期を通して概ね順調な操業となりました。

### ムシガレイ、ソウハチ 平年を下回る

主要魚種であるムシガレイは春漁が不調でCPUEは58トン、平年の7割の水揚げに留まりました。一方、ソウハチのCPUEは39トンで、平年の9割の水揚げとなりました。ソウハチは秋漁は好調でしたが春漁が不調で、全体としては平年をやや下回る結果となりました。ヤナギムシガレイのCPUEは9トンで、平年の5割の水揚げに留まりました。

### ケンサキイカ 平年を大きく下回る

ケンサキイカのCPUEは21トンで、平年の5割の水揚げに留まりました。秋～春にかけての漁獲量が極めて少なかったことが大きく響きました。また、ヤリイカのCPUEは11トンで、平年の1.9倍の水揚げとなりました。

### キダイ好調！

アカムツのCPUEは24トンで、平年の1.2倍の水揚げとなりました。小型サイズ（めっきん）は比較的好調に推移していますが、中～大型サイズ（のどぐろ）は近年減少傾向にあります。また、キダイのCPUEは61トンで、平年の1.4倍の水揚げとなりました。漁期を通して、小型サイズ（シバ）、中型～大型サイズ（レンコ）共に比較的好調に推移しました。一方、アナゴ類のCPUEは28トンで、平年の7割の水揚げに留まりました。アンコウのCPUEは31トンで、平年の8割の水揚げとなりました。マトウダイのCPUEは16トンで平年の1.3倍でした。

この他、冬季から春季にまとまった水揚げのあるマ

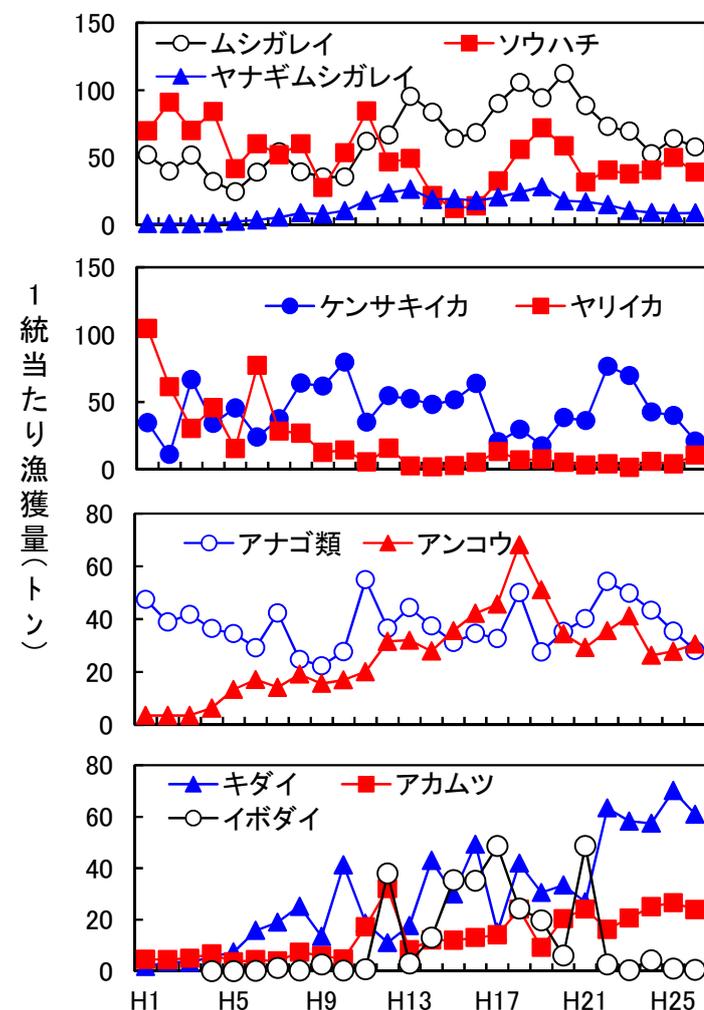


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

ブグのCPUEは83トンで、これは平年の2.6倍で平成元年以降最高の水揚げとなりました。また、カワハギ類もCPUE23トン（平年の2.4倍）と好調に推移しました。